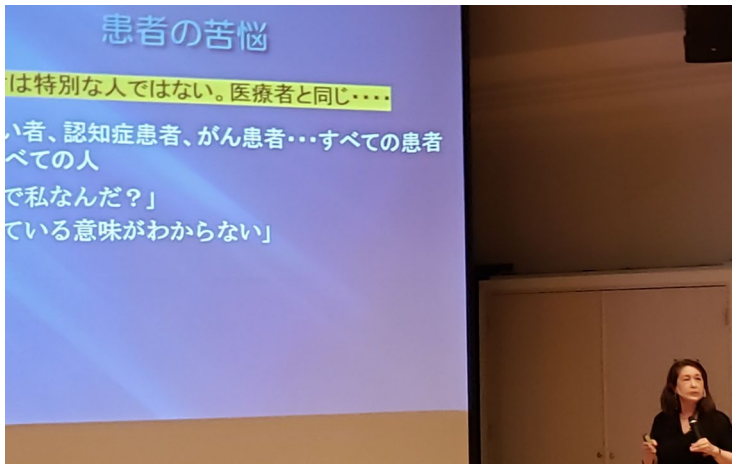


令和4年度 第1回研修会報告

テーマ：妖怪人間ベムは永遠に笑わない

～生きる意味は間に～



講師：京都大学大学院

人間・環境学博士

佐藤泰子先生

日時：令和4年5月23日（月）14：30～16：30 研修参加者 39名
令和4年6月1日～令和4年6月30日 オンデマンド研修

本協議会鳥井元会長の挨拶を皮切りに、3年ぶりの対面研修会が開催されました。イントロダクションでは懐かしい音楽に心躍り、講演が始まる前から会場は盛り上がりを見せていました。佐藤先生のパワフルかつ、軽快で楽しい語りに参加者は笑いと涙と共に聴講させていただきました。

先生の講演から「聴くこと・語ること」「倫理やコミュニケーションの本質」は看護に不可欠であり、思考の原点である言葉の大切さを学びました。人が物事を考える時はすべて「言葉」を使っている、考えることで「苦悩」となっていくことがある。この「苦悩」を対象が語る・吐くことができるような「聴く」姿勢によって、苦悩している人は「話して」「離して」「放す」ことができ「苦悩」から意味が変わっていくと述べられ、「聴く」ことの難しさや大切さを改めて感じる事ができ、人と人の間（あわい）の奥深さを感じました。

「妖怪人間ベムは永遠に笑わない」というテーマには、人間の生命の尊さの意味がこめられていました。人は死ぬからこそ、生きる意味があり、誰かとのつながりがあることによって自分の存在があるのだということを教えていただき、教員自身の「聴く」姿勢や言動を振り返る機会となり、今後の教育活動にも活かしたいという参加者からのご意見が多数みられました。

あっという間に2時間が過ぎてしまい、忙しい日々には優しさと思いやりを取り戻せた、充実した時間でした。今後も参加者から寄せられたアンケートを参考に、学生が看護に興味を持ち、生き生きと学び続けられるための教員のあり方や解決すべきことなどニーズに応じた研修を企画していきたいと思っております。